

兵庫版  
尼崎市名神町1丁目9-1  
兵庫県借地借家人組合本部  
発行人 田中祥晃  
06-6429-1500  
syakusyaku@m8.dion.ne.jp

# 借地借家人新聞

平日10時～17時迄  
土日祝日休日



## 組合に入り生きる希望が持てた

### 生活再建に頑張ると決意

2月9日に副組合長の和田壽子さんより家賃の長期滞納と金融会社より裁判になり困った人がいるので相談にのってほしいと連絡があり、その日に組合事務所へ相談に来た。77歳の辻村信一さんは、

1、今から20年前に金融会社より50万円を借り、その後、勤務先から解雇され、入退院を繰り返して、住まいも転々としていたため返済不能で支払っていませんでした。

2、辻村さんは10年前、車のひき逃げ事故により、職を失ない6ヶ月の重傷で入院し入院費が高額の支払いが困難となりました。

3、組合では、辻村さんが生きていくために、

住宅扶助と医療扶助が必要として身体障害者の認定の申請により、医療扶助と住宅扶助の申請。

4、早速、借家の管理人から返事があり、弁護士に賃貸借解除と借家の明渡し訴状を用意していたが、組合が入ってそこまですていた。

5、これを聞いた辻村さんは、「これで私は生きられます死ぬことも考えたが組合に入ってくれた。」

これから頑張りますのでよろしく」と喜びの返事がありました。

「借家人組合と私」新企画として  
組合員からの投稿及びインタビューで組合を身近に感じられ、親しみが持てるよう連載いたしますのでご期待下さい(連載)

中島清さんは3人兄弟の末子、奈良県生まれで大学卒業後、兵機海運株式会社に就職し、2年ほど務め退職しました。

その後、尼崎民主商工会の事務局に就職し、中小零細業者の税金、融資相談に応じて営業と暮らしを守るために頑張りました。

この時、現兵庫県借地借家人組合長の田中祥晃さんと知り合い、建設業110番、下請け、サラ金相談を一緒にこなして来ました。1995年1月の阪神淡路大地震が発生。尼崎市内でも多くの建物の全半壊が被災し、死者も出て、修繕すれば住める半壊住宅から立退き要求され、元藤本護組合長、当時田中祥晃事務局長、大借連事務局局長船越康巨さんをはじめ上原、垣添弁護士のご協力を得て、淡路島での学習会や大小の学習会、被災者を救済する被災者の会を立ち上げ被災者の要望に尽力。

組合事務所へ専従者を置き、組合費で運営する組合結成

総会に参加。

組合役員として、危険だから立退け、賃料値上げなど「住まいは人権」を肝に銘じて運動してきました。

尼崎民主商工会を退職後、独学で宅建業免許を取得し、不動産業「中島住宅」を起業し、奥さんは他界、子供二人と3人で運営しています。

高齢化が進み単身者の相談が多く、要求に答えられる住宅は減少しています。コロナ禍で相談が減少して値上がり不動産の売買がさ



相談して良かったと喜ぶ辻村さん

